

4月の日曜日、日帰り京都旅。高齢の母を誘ったところ、最初は二つ返事でしたが、時間を置くと歩けるかどうか不安になったようで悩んでいました。タクシー移動で、かつ一緒に手をつないで歩くことを提案し実現しました。目的は、京都国立博物館で開催の特別展“雪舟伝説”を観覧することです。でも折角京都まで足を運んだので、光悦寺、源光庵を拝観しました。光悦寺訪問は、東京国立博物館で開催された本阿弥光悦の大宇宙を観覧したことがきっかけです。正にレオナルドダヴィンチのように多方面で才能を発揮した光悦ですが、江戸初期に徳川家康から拝領した鷹峯に一族縁者、工芸職人と共に移り住み美術村を営みました。残念なことに光悦寺は光悦没後の創建のため、往時の建屋などはなく、暮らしていた風景を想像しながら散策しました。鷹峯の風景、丁度光悦の墓の傍らにある長椅子に座って見る風景は、往時と変わらないのかなと思うと感慨深かったです。そして源光庵を訪れ、迷いの窓、悟りの窓を久し振りにぼんやり眺める時間は有意義でした。その後移動のためアプリでタクシーを呼んだのですがサービス外地域?のため93才の母を雨の中歩かせてしまうはめに……。10分位歩いていると幸運にもタクシーを捕まえることが出来て国立博物館に向かいました。



新緑が眩しい境内です

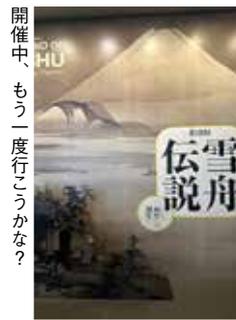


鷹峯の風景、紅葉も見てみたい



四角は迷い、丸は悟り

雪舟伝説!、雪舟筆の国宝6点も展示されとても見応えがありました。自分は全く水墨画に興味はありませんでしたが、母が水墨画教室に通い始め、自宅で描くようになることがきっかけで長谷川等伯という人物を知り、等伯という文庫本を読んでから水墨画に興味を湧きました。特に国宝である松林図屏風は、自分を水墨だけで圧倒させられた初めての絵でした。東京国立博物館所蔵ですので、興味のある方は是非一度ご観覧下さい。今回雪舟に



開催中、もう一度行こうかな?

是非一度ご観覧下さい。今回雪舟にスポットライトがあてられていましたが、雪舟の作品が数百年を通して各時代を代表する絵師、例えば狩野探幽、伊藤若冲などが同じ風景をモチーフにして描き、そこに自分なりのアレンジを加えて描いている、正にお手本だったんですね。そんなことを考えると如何に偉大な絵師だったんだなと再確認しました。

